

## 流木の無料配布を行います

### 【配布期間】

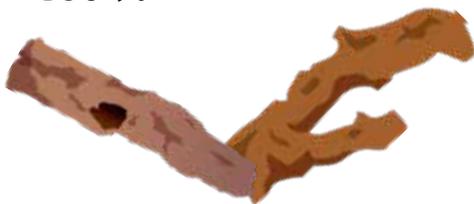
令和2年9月1日（火）から  
令和2年10月30日（金）

### 【配布場所】

幌延町字上幌延  
（幌延河川水防ヘリポート）

### 【注意事項】

- ・ 配布流木は先着とさせていただきます、なくなり次第終了とさせていただきます。
- ・ 流木は180cm程度に切りそろえています。
- ・ 利用については私的利用のみとさせていただきます。
- ・ 大型車両はご遠慮願います。
- ・ 車上への積み込み作業等の安全確保、事故や怪我については自己責任でお願いいたします。



## 簡易型河川監視カメラを設置しました



幌延河川事務所では、これまでも河川監視用カメラの画像を提供していましたが、近年、全国各地で発生している気候変動に伴い頻発化・激甚化する豪雨災害において、洪水の危険性が沿川住民に十分伝わらず、的確な避難行動に繋がっていないことが課題となっていました。

このため、リアリティーのある川の状況を画像で伝えるため、従来のカメラよりも機能を限定しコストを低減させた「簡易型河川監視カメラ」を設置しました。なお、カメラ画像はインターネット『川の水位情報』で確認することができます。



【川の水位情報】  
<https://k.river.go.jp>  
QRコードからも  
アクセスできます。

お問い合わせ先：留萌開発建設部 幌延河川事務所 河川課 電話 5-1231

## 気象台一口メモ

## 天災は忘れなくてもやってくる

現代では大雨などの気象現象の予測技術が徐々に進歩し、数日前から気象情報や早期注意情報（警報級の可能性）、災害の危険度の高まりに応じて注・警報等を段階的に発表することで、市町村の避難勧告、住民の避難行動等の判断を支援できるようになりました。しかし、一方で地震についてはまだ解明されていない部分が多く予測ができません。

「天災は忘れた頃にやってくる」は寺田寅彦（明治から昭和初期の物理学者で随筆家）が残した言葉とされていますが、寅彦自身の書物には記録がなく、寅彦の没後に弟子の中谷宇吉郎が世に紹介した言葉だそうです。寅彦は随筆の中で、大火、河川氾濫、台風などの災害を取り上げ、防災の重要性を訴えると同時に、稀にしか起きない大災害は忘れさられやすいことなどを記述していたので、そういう話の中で生まれた言葉かも知れません。

でも、阪神淡路大震災を忘れていないうちに、東日本大震災や胆振東部地震はやってきました。大雨による甚大な災害も近年は毎年のように起きていて、忘れるなんてありません。

さて、みなさん、事前の対策は取れていますか？寅彦に言われるまでもなく防災への備えは必要です。これまで大きな災害の少なかった宗谷地方ですが、地球温暖化などの影響でこれからは雨の降り方が変わってくる恐れがあります。お住いの場所周辺の災害の危険性や避難場所の確認など、何も起きていない今のうちに準備しておくことをお勧めします。

お問い合わせ先：稚内地方気象台 電話 0162-23-2679